

シリーズ 三郷学

〈三郷学の視点⑬〉

三郷学の視点

4. つなぐ〈地域公共人材〉



「地域公共人材」とは…

まちづくりを担うさまざまな主体(市民・企業・市など)が、そのおかれた状況や主体間の文化的・機能的な違いを乗り越えて、「参加と協働のまちづくり」を主導したり、調整できる人材のことを指します。この地域の担い手である「地域公共人材」が、さまざまな主体の中に生まれ、地域公共人材層が三郷の地にゆたかに醸成されるためには、そのための手法やしぐみが必要です。

市では、その取り組みの一つとして、昨年度から「三郷学で構想するまちづくりワークショップ」や三郷学講座を開催しております。また最近では、職員だけで研修を行うのではなく、市民との交流を取り入れた研修も開催しています。そして、これらの経験を踏まえ市では、本年7月から8月にかけて全職員を対象に、対話や議論をするうえでのルールやプロセスを学ぶ「ワークショップ研修」を開催しました。また、9月に開催された第3回三郷学フォーラムにおいて「第1回市民・学生による政策提言コンペ(競争)」を実施し、コンペ終了後には、政策提言した学生と市の新規採用職員が三郷のまちづくりについて語る交流会を行っています。

「人は城、人は石垣、人は堀」と生涯城砦を築かなかった戦国武将の武田信玄は、人こそが組織の要といっていますが、地域公共人材は地域の要です。市民や職員が「地域公共人材」として育まれる本市のこのような取り組みは、変化する地域課題を解決するための地域基盤でもあります。